

氏名	上川 滋
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第 4222 号
学位授与の日付	平成19年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Significant correlation of recruitable coronary collateral blood flow determined by coronary wedge pressure with ST-segment elevation during coronary occlusion (冠動脈楔入圧にて決定される冠動脈側副血流は冠動脈閉塞中のST上昇と有意に相関する)
論文審査委員	教授 大江 透 教授 成瀬 恵治 准教授 五藤 恵次

学位論文内容の要旨

冠動脈内圧を測定することで冠動脈側副血流量を評価できる。今回、経皮的冠動脈形成術(PCI)中の心電図変化と冠動脈側副血流の関係を検討した。左前下行枝病変の119例に対してPCI中の冠動脈閉塞時の冠動脈内圧を測定した。その際の心電図でV2-V4誘導における最大のST上昇値をMaxST、ST上昇値の合計を Σ STとした。機能的冠動脈血流(Qc/QN)は冠動脈楔入圧を大動脈血圧で除した値とし、心筋虚血はV2-V4誘導においてSTが0.1mV以上上昇した場合とした。その結果、Qc/QNとMaxST、 Σ STには有意相関が認められた。ROC曲線ではQc/QNは0.27をカットオフとして感度71.4%、特異度76.2%で十分な側副血流が得られていると示された。以上より、Qc/QNは、冠動脈閉塞中に心筋虚血を防ぎ得る十分な冠動脈側副血流が得られているかを決定するのに有用であることが示された。

論文審査結果の要旨

本研究は、経皮的冠動脈形成術中の冠動脈側副血流と心筋虚血との関係を検討したものである。冠動脈側副血流(Qc/QN)の指標として冠動脈楔入圧を大動脈血圧で除した値を用い、心筋虚血の指標としてST上昇の合計値(Σ ST)を用いた。経皮的冠動脈形成術中のQc/QNと Σ STには有意な相関を認めた。この研究は、心筋虚血と冠動脈側副血流の関係に関して重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。